



シラバス参照

タイトル「**2017年度 教養科目シラバス**」、フォルダ「**2017年度 教養科目シラバスー「教養の森」ゼミナール**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	「教養の森」ゼミナール（古典講読3）		
担当教員	天野 雅郎		
対象学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位区分	
授業形態	演習	単位数	2
準備事項			
備考	全学部・全学年		
科目名（英語表記）	Liberal Arts Seminar Course (Appreciation of the Classics 3)		
授業の概要・ねらい	<p>昨今、多くの日本（世界？）の大学からは姿を消してしまった、古典（クラシック）の講読の授業です。クラシック（classic）とは、その名の通りに古くから、人間の生き方や考え方を教えてくれる典拠として、私たちが位置づけてきた作品群に他なりません。</p> <p>が、そのような作品群が、ほとんど私たちの時代には振り返られなくなり、子供も大人も共に、はなはだ安易な、幼稚な頭の使い方や、言葉遣いに終始するようになりました。</p> <p>その結果、私たちの周囲には見るも無残な、社会や文化の残骸が露呈しています。</p> <p>この授業では、そのような時代を生きる（と言うよりも、生きざるをえない）皆さんが、どのように頭を使い、どのように言葉と向かい合い、どのように「人間になる」（being a human）ための道を歩き出すことができるのか、さまざまな古典の講読を通じて考えます。</p> <p>なお、講読に使用するテキストは、その折々の受講者の顔ぶれに応じて、日本語にするか外国語にするか、いわゆる「文系」寄りにするか「理系」寄りにするか、相談の上で決定しますので、最初の授業には必ず、出席して下さい。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ①プロロゴス（前口上） ②古典講読 ③古典講読 ④古典講読 ⑤古典講読 ⑥古典講読 ⑦古典講読 ⑧古典講読 ⑨古典講読 ⑩古典講読 ⑪古典講読 ⑫古典講読 ⑬古典講読 ⑭古典講読 ⑮エピロゴス（納口上） 		
到達目標	古典講読の方法（メソッド）や技術（テクニク）が、身を以って分かります。		
成績評価の方法	レポート（100%）		
教科書	各自、指定のテキストを購入して下さい。		
参考書・参考文献	適宜、紹介します。		
履修上の注意・メッセージ	特に、ありません。		
履修する上で必要な事項	毎回、テキストの所定の箇所を読んだ上で、授業に参加することが必要です。		
受講を推奨する関連科目	「教養の森」ゼミナール		
授業時間外学習についての指示	指示を出されなくても、日頃から自分で古典を読む習慣を、身に付けて下さい。		

その他連絡事項

特に、ありません。



Copyright (c) 2008 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.